

うたいぼん

謡本を読みよう!

「若手能」鑑賞のための入門講座

講師 能楽大倉流小鼓

ひさだ やすこ
久田陽春子



能鑑賞がはじめての方向けの入門講座です。

能の台本を「謡本(うたいぼん)」といいます。

平成28年1月30日に行われる第25回記念公演「若手能」大阪公演の演目「楊貴妃(ようきひ)」
「小鍛冶(こかじ)」を題材に、実際の演能の流れに沿った解説を聞きながら、一部をみんなで声に出して読みます。

文語で書かれているために聞き取りにくく、難しいと思われがちな能を楽しく理解して、
能鑑賞をより充実したものにしてみませんか。

◆日時 平成28年1月17日(日) 13:00~15:30(開場 12:30)

◆場所 大阪市立中央図書館 5F中会議室

◆定員 60名(当日先着順) 入場無料

◆対象 どなたでも



◆お問い合わせ 大阪市立中央図書館

利用サービス担当 TEL:06-6539-3301

第 25 回記念公演「若手能」(※)大阪公演の演目について

楊貴妃 (ようきひ)

能の曲目。三番目、鬘(かずら)物。五流現行曲。金春禪竹(こんばるぜんちく)作。白楽天の『長恨歌(ちょうごんか)』を基にしている。唐の玄宗(げんそう)皇帝は、死んだ楊貴妃を忘れかね、超能力者である方士(ほうし)(ワキ)に命じて彼女の魂魄(こんぱく)のありかを尋ねさせる。常世国蓬莱宮(とこよのくにほうらいきゅう)に至った方士は、仙界に生まれ変わった楊貴妃(シテ)に会い、玄宗の伝言を伝える。対面の証拠として、楊貴妃は七夕(たなばた)の夜の「比翼連理(ひよくれんり)」の愛の誓いを方士に明かし、いにしへの霓裳羽衣(げいしょううい)の曲に、思い出を込めて美しく舞う。方士の去ったあとに、楊貴妃はひとり泣き沈んで終わる。東洋史上最大の恋物語の艶麗(えんれい)さを、現世とあの世という憂愁のベールを通して描く、独自の幽玄能。異次元の存在がこの世にやってくる能は多いが、ワキが異次元の世界に入ってゆく能はこれ一番である。

出典：“楊貴妃(能)”，日本大百科全書(ニッポニカ)，JapanKnowledge，<http://japanknowledge.com>，
(2015年11月23日確認)

小鍛冶(こかじ)

能の曲目。五番目物、また四番目物にも。五流現行曲。作者不明。名剣の靈験(れいげん)談である。帝(みかど)が靈夢にみた名剣を打たせるため、勅使はそれを三条の小鍛冶宗近(むねちか)(ワキ)に命ずる。相槌(あいづち)を打つ名手のいないことを嘆いた宗近は、氏神である稲荷(いなり)明神に祈誓に出かけると、童子(前シテ)が現れて、古今東西の名剣のいわれを語り、かならず力を貸し与えると約して稲荷山に消える。前シテは老翁(ろうおう)の扮装(ふんそう)でも演じる。宗近は刀工の威儀を整え、鍛冶台を用意し祈念して待つと、稲荷明神(後シテ)が出現して神威をみせ、相槌を打ち、表に小鍛冶宗近、裏に小狐(こぎつね)と作者名を刻み、小狐丸と名づけた名剣が勅使に捧(ささ)げられる。喜多流には、白ずくめの扮装に狐足とよぶ特殊な足使いで演ずる演出がある。ほかにも多様な演出がくふうされており、その舞台の潔さ、小気味よさで人気曲となっている。

歌舞伎(かぶき)舞踊にも小鍛冶物の系列があり、長唄(ながうた)の『姿花后雛形(すがたのはなのちのひながた)』『誘謂色合槌(うちつれていろにあいづち)(新小鍛冶)』『優曲(ゆうきょく)三人小鍛冶(今様小鍛冶)』、昭和になつてからも義太夫(ぎだゆう)節による木村富子作『小鍛冶』が上演されている。

出典：“小鍛冶”，日本大百科全書(ニッポニカ)，JapanKnowledge，<http://japanknowledge.com>，
(2015年11月23日確認)

(※)若手能 ……大阪・兵庫の40歳以下の若手能楽師が企画・運営し、行っている公演

主催 / (独)日本芸術文化振興会 国立能楽堂 協賛 / (公社)能楽協会 大阪支部

後援 / 大阪府 大阪府教育委員会 大阪市 大阪市教育委員会

関連図書展示

講座の内容に関連した図書展示を行っています。こちらもぜひご覧ください。

【タイトル】能の世界へご案内

【日時】：平成27年12月18日(金)から平成28年2月17日(水)まで

【場所】：地下1階 レクリエーションコーナー前